

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	神奈川県	市町村名	相模原市	大学名	
派遣日	令和5年10月23日(月曜日) 15:00~17:00 15:00~15:10 研修開始・挨拶 15:10~16:40 講義 16:40~16:50 質疑応答 16:50~17:00 振り返り・終了 ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	相模原市役所会議室				
アドバイザー氏名	東京外国語大学大学院 教授 菅長 理恵 氏				
相談者	相模原市教育委員会 【研修参加者】 55名 ・国際教室担当教員 ・日本語指導講師				
相談内容	本市において日本語指導が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、国際教室担当教員など日本語指導に携わる教員等によるアセスメントに基づく日本語指導に関する理解や指導力の向上が必要である。また、外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAを実施している学校においても判定に迷いがあり、結果を生かした日本語指導、教科指導にも課題があることから、DLAを中心とした内容の研修を依頼。 【主な研修内容】 ①DLAについて ②DLAの具体的な実施方法について ③DLAの結果を生かした日本語指導の在り方について				
派遣者からの指導助言内容	①DLAについて ・CLD児童生徒(Culturally and Linguistically Diverse Children)の学習支援における基本的な考え方として、学ぶ土台を広げる・学ぶ機会を増やす・学ぶ動機を高めるには、学校全体で取り組む必要があり、具体として学習の計画を「見える」化すること、学び方を学ぶ「方法探し」をすること、学びを保障するために「本」「辞書」「インターネット」などにアクセスできる場をつくることが挙げられる。 ・DLAの目的は、CLD児童生徒の言語能力のステージ(習得段階)を測定し、支援・指導計画の立案に役立てることである。 ・CLD児童生徒を肯定的にとらえ、年少者の言語習得の特徴を踏まえて実施するこ				

	<p>とが必要。</p> <p>②DLA の具体的な実施方法について</p> <ul style="list-style-type: none">・測定結果は JSL 評価参照枠に当てはめ、ステージを確定することで、どの段階であるのか、どのような支援をするとよいか分かり、支援・指導計画の立案等に役立つ。・DLA は児童生徒の日本語能力を測定するものであると同時に、指導者にとっては支援・指導計画を考えるものであり、また、児童生徒にとっては対話によるアセスメントそのものが学習活動である。・CLD 児童生徒が DLA に楽しく取り組み、達成感をもてるように、できたら褒めるなど、自己肯定感を高めることが大切である。 <p>③DLA の結果を生かした日本語指導の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none">・評価を生かして指導計画を立案する際は、学習目標例を参考とし、スモールステップで学習できるようにする。・CLD 児童生徒との対話を通して指導することによって、目標を見つけること、達成感が得られること、学習意欲を高めることができる。・指導者も対話を通して、対象の子どもの新たな一面や課題など、対話から得られる情報は多い。・DLA のアセスメントは、評価として行うのであれば年1回、学習支援に応用する場合は適宜行うことが想定される。・学びの機会を保障することは学習意欲につながる。授業の中でわかること・できることを少しずつ増やしていくとともに、学んだことを発表し、できたことなどを認められる機会をつくる必要がある。・DLA の測定結果を活かすには、結果を踏まえた指導計画の立案をすること、結果等を学校全体で共有すること、教育委員会等の行政が必要に応じた支援を行うことなど、継続的・多面的に支援していくことが必要。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>○今回の研修内容である DLA の目的や実施方法等について、研修等を通して市内に普及拡大する機会を設けて、各校でアセスメントに基づく日本語指導や教科学習を実施できるように支援していく。</p> <p>○研修者からは、DLA の目的や実施方法等を学べたことで、DLA の結果を学校全体で共有を図るとともに、今後の指導・支援に生かしていきたいという感想が多くあった。</p> <p>○講師の菅長先生には、DLA について講義を通して大変わかりやすく教えて頂き、本市は多くの学びを得ることができた。今後も外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣制度を引き続き利用させていただきたい。</p> <p>■以下は研修後に実施した研修者アンケートからの抜粋である。</p> <ul style="list-style-type: none">・子ども自身が学ぶ力をつけるために DLA を活用したいと思いました。子どもに合った指導計画をしっかりと立て、褒めながら力を伸ばしていきたいと思いました。また、一人でやるのではなく、学校全体で共有しながら CLD 児童の学習支援をしていきたいと思いました。・DLA の使い方はとてもよくわかり、年一回、正しく実施したいと思いました。児

(様式3)

	<p>童生徒が求めている日本語の学習になるようアンテナをはり、「できる」「できた」と達成感が得られるような指導を心がけたい。学習意欲の高まりが日本語の定着には必要であることを学びました。</p> <ul style="list-style-type: none">・常に児童生徒を主体として考えること、その児童生徒にとって興味をもつ土台や場の設定などのしかけを考え、その機会を保障することが大切であることを理解しました。そのためには、その児童生徒の現状や背景を理解したうえで、目標を考え計画を立てること、指導の方法やししかけを工夫することが重要であることを学びました。
--	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。